

## <設計 Point>



### (1) 間口幅の土間

玄関に間口幅の土間を設け、土間で訪問者を一旦受け止めることができるようにしました。そして、玄関土間に面して息子と娘の部屋を置き、子どもたちがリビングを通らず玄関から直接部屋に入ることができるようにしました。これは、①将来、子どもたちが全部独立して自分一人になる場合と、②自分が外部サービスを受けることになる場合を考え、来客のアクセスをコントロールするためです。例えば、①の場合、子ども部屋をオフィスとして使えば、お客さんが家の奥まで入らなくてもオフィスで仕事が済ませられます。また、②の場合は、外部サービスの人から子ども部屋でサービスを受けられるようにすれば、ほかの家族の生活を妨げずにサービスを受けることができます。

### (2) 風の抜ける家

玄関には雪見障子のような、摺り上げ・下げ障子を3か所設置しました。そして娘の部屋と母の寝室を続き間にするすることで、視線を遮りながら3本の風の道を確認しました。



### (3) 子どもを育てやすい家・子どもが育つ家



子どもの自立を促すために、それぞれに玄関から直接入れる個室を与え、管理を子どもに任せました。例えば洗濯物は、乾いたらそれぞれの部屋に放り込むことで、自分でたんで片付けるようになりました。

また、母の個室と書斎の鍵を玄関と違うものにするすることで、セキュリティゾーンを設けました。やむを得ずシッターやヘルパーを呼ばないといけない際には、貴重品をセキュリティゾーンに入れて鍵を閉めると安心してサービスを受けられます。母の個室と廊下の間にあるトイレは、廊下からも母の個室からもアクセスできますが、トイレから母の個室に入れないように個室側から鍵をかけられるようにして、セキュリティ性を確保しています。

### (4) つながりをはぐくむ家

ダイニングに大きなダイニングテーブルとアイランドキッチンを置き、交流スペースを設けました。一般的にはアイランドテーブルにシンクとコンロを一緒に置いたり、アイランドテーブルから振り向いたところにコンロを置きますが、ここではシンクの横方向の壁際にコンロを置くことで、調理する人と片付けをする人の立ち位置が分けられ、複数人で一緒に使えるようになりました。

### (5) 木に囲まれて暮らす家



共同設計者の三澤氏は木の専門家家で、集合住宅という躯体の内側に木の枠組みを作って、そこに木の棚などを造作することを提案してくれました。漆塗りの床や無垢材をふんだんに取り入れることで、マンションでありながら木に囲まれた住まいを実現できました。

### (6) 住み継ぐ家・引き継ぐモノ

京町家に住んでいた両親から引き継いだ水屋や桐タンス、本棚、鏡台、木目のピアノ、絵画、彫刻、書籍、ひな人形、座卓などに居場所を与えました。書斎の壁は撤去可能なつくりにして、将来必要に応じて空間を拡張できるようにしました。

## (7) 健康に住まう・省エネルギー



ベランダ側のサッシの内側にペアガラスの内窓や障子を設置しました。また玄関側のサッシと鉄扉の内側にも障子を設置し、全ての障子を閉めると、凸の字の空間が温熱的なバッファゾーンになり、冬はこの空間があるおかげで奥の空間の断熱効果が上がっています。さらに、障子を設置したことで、結露もなくなりました。

家の断熱を表す数値である UA 値は、低いほど断熱性がよいことを示します。「中京・風の舎」の場合、UA 値は改修前  $0.88\text{W}/\text{m}^2\text{K}$  から改修後  $0.51\text{W}/\text{m}^2\text{K}$  と、断熱性が向上しています。立命館大学の近本研究室との共同研究で、温熱環境と風環境を検証した結果も、冬期の室内温度は、土間、子ども部屋、リビングという順で上がり、予想どおりの温度のグラデーションが実現できていました。それによって、暖房器具をつかわなくてもある程度温かく暮らせるようになりました。また夏の初めくらいなら、窓をあけると風が通るため、冷房を使わなくても室内温度が下がりました。

今回のリフォームを通じて実現できたことも実現できなかったこともあります。マンションでも、和の良さを活かし快適な暮らしができることを実感しています。